

答申（案）（環境・都市基盤専門部会）

当該分野においては、環境、都市基盤に関する施策が示されている。自然環境や都市基盤の整備は、長期的な視点に立った施策の立案が望ましい。これについて、次のように提言する。

現時点では表面化していない問題であっても、今後、生活環境に影響を及ぼす恐れのあるものについては、基本計画に明示しておき、その影響を最小限に抑えるよう努めてもらいたい。特に、那覇らしい景観や自然環境を維持・創造していくうえで、外来の植物や動物の存在を課題として認識し、課題を克服する取り組みを期待する。

都市基盤の整備については、快適であることに加え、安全であることが安心につながるよう日常の維持管理の視点を強化してもらいたい。災害時の避難場所や避難経路となる都市機能については、行政の各分野に横串を通し、それぞれ施策が連動して機能することが重要であるため、他の施策との関連も含め表現を工夫してもらいたい。

本市のリーディング産業である観光関連産業をさらに振興する上で重要となる都市の景観については、新たな景観資源の創出するとともに、維持管理の視点を強化することにより、次世代へ引き継ぐ姿勢を示してもらいたい。

上記の内容も含めて、個別に列挙すれば次のようになるので参考にされたい。

41 省エネを実践するライフスタイルへの転換を促進するまちをつくる

- ・指標「地球温暖化を防ぐための実践項目数」の単位がわかりづらいため、「個」から「項目」への修正を検討してもらいたい。

43 那覇らしい景観を実現し、次世代に受け継ぐまちをつくる

- ・施策概要において、「固有の風土をいかし、歴史や文化を守り、いかす景観形成を」で「いかし」「いかす」と続くため、「固有の風土、歴史や文化を守り、それらをいかす」への修正を検討してもらいたい。
- ・取り組みの柱と方針に維持管理の視点があることで、次の世代へ引き継ぐ姿勢がはっきりと示されるため、維持管理に関する取り組みの記述を検討してもらいたい。
- ・首里金城地区、龍潭地区、壺屋地区を景観形成地区に指定していることについて、現状と課題への記述を検討してもらいたい。
- ・課題で「モノレールを視点場とする家並み等を整備する必要がある」とあり、景観形成地区の新規指定について取り組みの方針に記述を検討してもらいたい。

44 自然や水辺環境をみんなで育むまちをつくる

- ・首里の樋川（ひーじゃー）や湧水が枯渇している現状がある。水辺の環境の再現・復活させ、首里の歴史・文化を継承していく必要があると考えている。大地の保水力、地下水の涵養に取り組むことで、緑化にもつながる。浸透性の舗装の道路整備、屋敷から道路側溝に流すのではなく自然浸透を促す等の取り組みを検討してもらいたい。
- ・漂着ゴミの問題についての記述を検討してもらいたい。

- ・市内でギンネムが繁茂している状況や、アメリカハマグルマが咲いている状況が確認されているため、外来植物の問題を現状と課題への記述を検討してもらいたい。
- ・マングース、テラピア、バス、ミシシッピアカミミガメ、ヒアリ等の外来動物に関しても現状と課題への記述を検討してもらいたい。
- ・外来種への対応について取り組むとした上で、取り組みの柱と方針を細分化し、取り組みの方針への記述を検討してもらいたい。具体的には、次のような記述が考えられる。

1 親水空間の保全・創出のための水質向上

- （原案に下水道接続率の向上についても加える。）
- （地域の河川愛護会のような民間の活動を支援するような政策）
- （河川や海浜の清掃や漂着ゴミの対策）

2 自然生態系の保全・再生・育成のための生物多様性への対応

- （外来動物種の駆除や制御のための政策、たとえば外来動物種の情報ネットワーク等）
- （外来植物種の除去の推進、市民の協力依頼）
- （本来あるべき那覇市らしい自然生態系を目指すための注意喚起等）

3 環境啓発事業（原案のまま）

45 魅力ある公園を整備し、みどりを守り・育て・活かすまちをつくる

- ・みどりを活かす視点から、「市民の主体的な活動や民間活力を活かした効果的な整備・再生を推進し、にぎわいのある魅力的な公園づくりを進めます。」については、取り組みの柱「公園・緑地の整備」とは別に記述して、既存公園の活用や維持管理の視点をより明確にすることを検討してもらいたい。
- ・主要道路から少し離れた場所にある公園が十分に活用されていない可能性があるため、公園の表示等活性化させる取り組みを検討してもらいたい。

46 地域と共にみどり豊かな美しい道路空間のあるまちをつくる

- ・ICTを活用したボランティア団体を把握するための登録システム、活動状況を共有するためのSNSの利用、ボランティアを積極的に評価する仕組みなど「道路美化活動団体増加に向けた取り組み」に具体的な方針の明示を検討してもらいたい。

47 市街地の整備を促進し快適で魅力あるまちをつくる

- ・災害時における重要な避難経路の確保のため、工作物（ブロック塀）に対する取り組みの方針を記述を検討してもらいたい。

48 誰もが移動しやすいまちをつくる

- ・モビリティマネジメント、フリンジパーキングについては、一般の方も理解できるよう注釈を付けることを検討してもらいたい。
- ・「自転車道路」をキーワードとして盛り込むことを検討してもらいたい。具体的には、「徒歩や自転車で快適に移動できる『自転車道路等』のネットワークを構築すると

ともに」などが考えられる。

- ・誰もが移動しやすくなるよう道路標識などのサインについても取り組みの方針に位置づけることを検討してもらいたい。

49 住宅環境が整備され、快適に住むことができるまちをつくる

- ・高齢者や障がい者の居住空間の確保のための取り組みを強化し、民間賃貸住宅の低層階のユニバーサルデザイン化の支援を検討してもらいたい。具体的には「民間賃貸住宅の情報提供を行い、特に民間賃貸住宅の低層階のユニバーサルデザイン化の支援を検討します。」などが考えられる。

50 人と動物が共生し、衛生的な生活環境が確保されたまちをつくる

- ・マングースやカラスが増えている現状があるため、ハブ、ねずみに加えてマングース、カラスなどの対策を検討してもらいたい。具体的には「○将来、生活環境に影響を与える可能性があるマングースやカラスなどの害獣対策を検討します。」などが考えられる。

51 安全・安心で快適な都市空間の確保されたまちをつくる

- ・修繕計画に重点をおいているが、「日常的な維持管理計画」の記述を検討してもらいたい。
- ・散策できる「ネットワーク」づくりに、「ネットワーク」が示している類例を用いて説明を加えることを検討してもらいたい
- ・景観に配慮したサインについて、取り組みの方針に別建てで加えることを検討してもらいたい。その際、景観に関する施策と横串を通すように同様の表現としてもらいたい。
- ・災害時の避難施設の整備について、学校施設他の施設整備を関連施策として明示することを検討してもらいたい。
- ・バリアフリーだけでは、外国人観光客への対策等が十分に反映されないため「人にやさしい、バリアフリーに配慮した」を「人にやさしい、ユニバーサルデザインに配慮した」への修正を検討してもらいたい。

52 強靱な水道で、いつでもどこでも安全安心なまちをつくる

- ・直結給水を拡大する取り組みについては評価できるが、老朽化した貯水槽の直結給水への変更を推進するため、衛生管理や台風時の飛散について広報活動の強化を検討してもらいたい。

53 公共下水道を整備促進し、安全安心なまちをつくる

- ・下水道の接続については、他人の土地を通すことや費用の工面が難しいことがあり、接続率 100%にするには厳しい現状があるが、下水道が接続されることにより河川の水質改善につながるため、接続率 100%を目指して取り組んでももらいたい。

54 地域の特性を活かし魅力が高められたまちをつくる

- ・「市民、企業、大学等の多様な主体との連携や情報共有により、多様な視点からのまちづくり」では「多様」が連続しているため表現を修正するとともに、連携する主体に「NPO」を加えることを検討してもらいたい。具体的には、「市民、NPO、企業、大学等との連携や情報共有により、多様な視点からのまちづくり」が考えられる。
- ・「安全安心」の表記を統一してもらいたい。

55 那覇港湾施設（那覇軍港）の跡地を活かしたまちをつくる

- ・那覇港湾施設（那覇軍港）の跡地利用については、市民の機運が高まるような取り組みを検討してもらいたい。跡地利用に向けた広報活動の充実や市民意見の取り込みが望まれる。